特集　その2

郷土　亀山の歴史と歩み

特集その２

郷土亀山の歴史と歩み

編集者：濱田 昭法

はじめに

亀山地区社会福祉協議会（亀山地区社協）が創始５０年を迎える。１０年ひと昔と言いますが、急激に変化する今日の社会においては、５０年といえども長い歴史をひも解けばわずかな時間である。

また、昨年は終戦８０年の年でもあった。亀山地域においても多くの先人の方々が、戦後の悲惨で苦しい日々を乗り越えて、現在の亀山を築いてこられたことは忘れてはならない。その上、当地域は交通機関の発展と、団地造成などによる都市開発等によって、目覚しい変容を遂げてきた。

この機会に振り返ることで、これからの亀山地域の明るい展望を見出す機会になればと思う。同時に、この地にも多くの人々が転入され、人口の増加と共に、少子高齢化の中で地域も子や孫の代に向けて、新しい地域社会に生まれ変わろうとしている。その中で第二の故郷とし、この地で、人生を歩まれる方にとって、亀山地域の歴史を振り返り、魅力と活気のある地域を知っていただくことで、亀山に深い愛着と親しみを感じ取っていただきたい。その上で、大きな誇りと自信をもって次世代へ継承していただくことを願い「亀山の歴史と文化のあゆみ」を記す。

１．亀山地域の地形と起源

中国山地に源を発する太田川が可部付近で大きく右にカーブしながら広島湾にそそいでいる。そのカーブした外側のデルタの上に築かれた可部盆地がある。亀山地域は、さらに可部盆地の中央あたりから西北方面に向けて、四方を山に囲まれた沖積平野と山間地区にある。中央には堂床山を起源とする大毛寺川をはじめ、太田川の支流となる帆待川（ほまちがわ）・行森川の豊富な水量は土砂を運び、肥沃な土地と平野を形成し、古来人が住みつき、亀山地域の水田耕作と産業等の生活基盤が築かれたものと思われる。

２．亀山の古代を回想できる古墳群

可部盆地の北部、福王寺山の南山麓一帯の傾斜地に、東西に長く古墳時代後期（６世紀～７世紀）の古墳群が6群連なっていた。その数１００基近くあったと伝えられている。亀山の地には給人原（きゅうじんばら）古墳群、原迫古墳群、青古墳群（広島市指定史跡）の３群がある。これらの古墳群を通して、

この地方には早くから多くの人々が生活していた様子がうかがえる。残念ながら、団地造成などの地域開発と盗掘等で、現在は給人原古墳群と青古墳群の一部が見られるのみである。給人原古墳群は１０数基確認できるが、完全な形を残している１基を除いては、天井石は紛失して破壊も著しい。それだけに多くの出土品や現地の横穴式の築石等から、古墳時代後期の当時の生活に思いをはせることができる。



亀山の地に現存する給人原古墳群の一部

３．金の亀の「福王寺」と亀山（かめやま）の名称

亀山の北部にそびえる福王寺山（５００m）の頂上付近には、１,２００年前に弘法大師により開基されたと伝えられる福王寺がある。境内にはこの時、金の亀がお迎えしたと伝えられる金亀池（きんきいけ）をはじめ、広島市指定天然記念物となっている燈明杉の大木や文化財等々が残っている。亀山の名称は亀をとって亀山と称したと伝えられている。



福王寺　金堂

４．戦国のロマンを感じる義経橋と義経の墓

国道１８３号、可部上市交差点を西方向に向かう国道１９１号に沿って２キロ余り入ったところに、大毛寺川をまたぐように石橋があった。現在地は開発と近代化で大きく改良され、橋としての見分けが薄くなっている。この橋の名称が、義経橋である。橋の河川上流に竹藪があり、その付近に義経の墓があった。その後、移転を重ね、現在、亀山６丁目の民家の裏手に移築されている。名称等の根拠については不明であるが、田植え時期になると子供たちは橋を挟んで乱舞する蛍を、源平合戦と呼んで蛍狩りをする姿があった。付近に源氏田姓を名乗る古民家もある。古老の話によると、夜になると青年が（墓地付近で）肝試しをしていたと伝えられている。今にロマンを感じさせる「義経の墓」と「義経橋」である。



亀山６丁目民家の裏にある「義経の墓」

５．原爆投下と戦時、戦後の亀山のできごと

今から８１年前、真夏の日が照り付ける昭和２０年８月６日、早朝８時１５分、広島に原爆が投下された。静かな亀山村の１日は、原子爆弾の投下時に落とされた３個の落下傘が風に流され、亀山地域（大毛寺）の山中、水田にそれぞれ落下したことから始まる。落下傘は奇妙な吊り下げられた物体を運んできた。村の住民は「爆弾だ、アメリカ兵だ」と叫び、恐怖で離散する等、大変な騒ぎとなった。奇妙な物体は米軍の原爆観測用無線機であったことから、午後になるとそれぞれ避難していた村人は家に戻った。原爆の惨状を知るよしもなかった村人は、避難してくる被災者への救護・救援等で支援をした。当時、亀山国民学校・亀西国民学校・綾西国民学校等の登校児童はもとより、白島国民学校児童の疎開先であった説教場、お寺等では児童の対応に追われていた。

６．変容を遂げた亀山の学校

明治７年、８年にかけて亀山地域の各村に七舎（広徳舎、雪螢舎、教生舎、独進舎、知成舎、煥章舎、独立舎）が設立し学校教育が始まった。昭和２０年になると七舎は亀山国民学校、亀西国民学校（現下行森）、綾西国民学校（現綾ヶ谷）、亀北国民学校（現南原）、川手国民学校（現中河内、）と分かれて授業を行っていた。また、戦時体制の中で陸軍病院の患者、白島国民学校の児童の集団疎開の受け入れ等、混乱期の中での学校生活であった。昭和２２年には学校教育法の下に新制の小学校、中学校が発足した。昭和２９年には可部町に合併、村立から町立小学校に改称された。昭和３７年には亀山小学校・綾西小学校・亀西小学校が統合し、新しく亀山小学校として発足する。亀北小学校・川手小学校は可部小学校と統合した。昭和４７年に広島市と合併すると、市立小学校・中学校と改称された。昭和５２年に亀山小学校では開学百周年記念行事も開催され、この時「五郷（ごきょう）の泉」が建立された。団地造成と開発のもとに人口は増加、児童の増加で亀山南小学校が亀山小学校から分離した。現在に至る。



亀山小学校にある「五郷（ごきょう）の泉」

7. 戦後の地域の暮らしと年中行事

戦後の貧しい日常生活の中にも、隣組を通して連絡を取り合い、助け合いながら、村の伝統行事が守られてきた。元旦の初詣からはじまり、火を囲み餅焼きを楽しむとんど。４月の花見、潮干狩り、七夕、夏の盆踊り、秋祭り等、年間を通して村を上げて楽しむ行事がみれた。しかし、都市化の中で宅地化は進み、行事も減少し、隣近所のふれあいと助け合いの精神の希薄が見られる現状がある。



たんぼで行われた「とんど」

8. 自然の中での子供たちの遊び

子どもたちの遊びは、テレビもなく、自然との関わり中での遊びが多かった。反面、家族での仕事の手伝い、学校から帰ると山へ行き木々集め、食卓にならぶ川魚を取ったり川遊び等、遊びと手伝いが一体化する姿も見られた。日常的な子供の遊びとしては、コマ回し、縄跳び、鬼ごっこ、水泳、読書、蛍狩り、相撲、お手玉、野球等があった。こうした男女間・年齢を超えた遊びは相手に対する思いやり、助け合いの気持ちが自然と子供たちに身についたと思われる。

9. 昭和２０年代～４０年代の亀山（現亀山七丁目付近）

亀山の中央付近に、旧可部街道から幕の内方面に国道１９１号線を２キロ余り進む大毛寺川を横切る義経橋があり、西側には村役場（可部町に合併すると支所）があった。村役場をとり囲むように国道１９１号に沿って駐在所、亀山小学校、郵便局、農協、農協倉庫、消防団詰所、火の見やぐら、寺社等の行政機関をはじめ医者、各商店が集中し、日常の人々の賑わいと活気があった。



戦後の亀山の「村役場」

１０．土地開発と団地造成

１９６０年代、高度経済成長の時代に入ると、交通機関の発達と都市開発のもとに企業は都市から周辺部のまちへ移転していった。昭和４６年には新都市計画法に基づいて都市計画区域が設定された。市街化区域、市街化調整区域が線引きされると、大毛寺・四日市・福原全域が市街化区域に入り、虹山山麓の宅地開発が急速に進んでいった。さらに周辺の山林の宅地化に伴い、福王寺山麓から下行森まで大小の団地が開発されていった。

１１．交通機関の発達と幕の内トンネル

現在では２時間余りの、浜田～広島間の交通量の激しい１９１号である。昭和２０～３０年当時は、車も少なく、危険な中にも子どもたちの遊び場のようでもあった。戦時の中では、原爆投下による被災者、避難者で通りは混乱した。亀山地域の住民の温かいもてなしもあったと聞く。

戦後の復興期、１９１号には、材木を積載したトラックの往来から通勤者で満員のバスなど、未舗装の道路であるが活気を取り戻していた。

山県地方や安佐町周辺からの亀山への西の出入口でもあった幕の内峠は、新道が明治１２年に完成した。当時としては広い道路で､幅４･５ｍの｢お化け道路｣とあだ名をつけられたほどであったと聞く。

しかし、時代の流れとともに交通上の難所として悪評を得る様になり、その後、問題を解決するために、昭和２６年に幕の内峠の山麓にトンネルを通すことになった。昭和２９年１２月１日、県下初の有料道路として開通することとなったが、トンネル工事の進行中、幕の内峠からの転落事故があり、安佐郡最大の交通事故と大きく報道された悲しい事故もあった。



昭和２９年に開通した「幕の内トンネル」

１２. 自然災害と河川の改修

地球の温暖化と気候変動は、全国各地で大きな自然災害を引き起こしている。温暖で住みよい自然に恵まれた亀山も、台風や豪雨による自然災害に遭遇している。平成１０年６月２９日の土砂災害は。尊い住民の命を奪っている。こうした豪雨災害、河川の決壊などで、亀山の地内の大毛寺川はじめ行森川、綾西川、帆待川等において長期にわたる改修工事が行われた。一方、防災に向けた避難訓練はもとより、防災マップづくり等、平素からの助け合い、声掛けの必要性がより重要になってきた。

最後に、こうした亀山の起源から築かれた亀山の歴史と多様な文化は、多くの先達の、目に見えない努力と伝承の賜物と思われる。亀山地区社協の創始５０年において、「住んで安全　暮らして安心　絆のまち　かめやま」の基本姿勢のもとに、平和でやさしい住みよい亀山のまちづくりの実現に努めていきたい。

※参考資料

・『可部古墳群（目で見る給人原古墳群)』（発行：はにわ会）
・『可部町史』（発行：広島市役所）
・『開学百年記念誌 かめやま』（発行：小学校開学百周年記念事業実行委員会 ）
・『亀山公民館１０周年記念誌』（発行：亀山公民館）

亀山の文化と歴史 年表

紀元前６６７年	船山の名称由来、船山に神武天皇が九州から大和へ東征の途中、立ち寄られたと伝えられる。
６～７世紀	古墳時代後半、６～７世紀ごろに福王寺山南山麓一帯に古墳群が築かれた。
天長　5年（ 828）	弘法大師により開基されたと伝えられる福王寺が、福王寺山の頂上付近にある。
建長　5年（1253）	両延神社は、建長５年、宇佐八幡宮の分社を現在地に奉還したのが始まりと言われる。
慶長　6年（1601）	福島正則の行政改革実施で、大毛寺、上四日市、下四日市　勝木、綾ヶ谷の５か村ができる。 後に、柳瀬、今井田が下四日市村から分離し、今井田村、柳瀬村が設置された。
宝暦　4年（1754）	中国地方三大牛市の１つ、可部の船山で牛馬交換会が持たれたのが最初という。石見・出雲・都志見往還に分かれる交通の便が良いところから、場所を船山から上市に移した。可部の経済の重要な役割を果たした。市の立つ期間には露天商の店等でにぎわった。
寛永　7年（1630）	江戸時代、参勤交代で江戸詰めの時、特産品としてアユ、干し柿等が献上された。
文政　2年（1819）	今にロマンを呼ぶ「義経の墓」と伝えられる墓がある。付近に「義経橋」がある。
明治　7年（1872）	亀山小学校創立。
明治１３年（1878）	飯室、勝木間の「幕の内峠」に、幕の内道路が完成した。
明治２２年（1889）	亀山村誕生（大毛寺・四日市・今井田・勝木・綾ヶ谷の５カ村が合併）。
明治４５年（1912）	太田川本流の最初の亀山発電所が完成する。
昭和１１年（1936）	明治４４年に横川駅～可部駅間の鉄道が開通、昭和１１年には可部駅～安芸飯室駅間が開通した。
昭和１６年（1941）	小学校が国民学校と改称される。
昭和２０年（1945）	亀山国民学校・亀西国民学校が白島国民学校の集団疎開児童を受入れた。広島陸軍病院の荷物疎開、病院患者等の疎開となっていたので、宿舎は報恩寺と行森説教場であった。当時、二部授業が実施された。
昭和２２年（1947）	亀山村立亀山小学校と改称。
昭和２５年（1950）	高宮中学校が落成。
昭和２８年（1953）	幕の内トンネルの工事半ばでバスの転落事故が発生した。安佐郡内最大の交通事故となる。 亀山公民館が亀山小学校に併置された。
昭和２９年（1994）	幕の内トンネルが開通する。平成１２年には上下線４車線が完成した。
昭和３０年（1955）	亀山村、三入村、大林村、可部町が合併して新可部町となった。地名が可部町大字となり亀山の地名が消える。
昭和３４年（1959）	可部中学校・高宮中学校が合併。新可部中学校となる。
昭和３７年（1962）	学校統合で亀西小学校・綾西小学校・亀山小学校が統合し、新しく亀山小学校となった。
昭和３９年（1964）	東京オリンピックの聖火が可部を通った。
昭和４４年（1969）	アポロ月着陸。幕の内トンネル（有料道路）が無料開放となった。 亀山陸橋開通式が行われた。
昭和４６年（1971）	広島市に安佐郡が合併し、大字四日市、大字勝木、大字綾ヶ谷、大字大毛寺となった。

昭和４７年（1972）	可部町が広島市に合併編入し、広島市立亀山小学校と校名が変更した。
	亀山留守家庭子ども会　発足。
昭和４８年（1973）	広島市指定天然記念物に「福王寺燈明杉」が、広島市指定史跡に「青古墳群」が指定された。
	亀山南小学校児童とのお別れ会が行われた。
昭和４９年（1974）	亀山小学校が亀山南小学校を分離した。亀山中学校が亀山南に創立された。
昭和５０年（1975）	広島カープが初優勝した。
昭和５２年（1977）	亀山公民館　開館。
	亀山小学校１００周年記念祭、記念碑「五郷の泉」除幕式。
	亀山地区社会福祉協議会が設立した。
昭和５５年（1980）	広島市が政令指定都市になった。
昭和５８年（1983）	安佐北区民文化センター開設。
昭和６０年（1985）	改正道交法の実施、シートベルト着用が義務づけられる。
昭和６１年（1986）	市街化された地域に新住居表示が実施され、「亀山１丁目～亀山９丁目」が新設。
平成　元年（1989）	新元号　平成元年スタート。
平成　２年（1990）	台風１９号が紀伊半島に上陸し、大きな被害をもたらした。
平成　４年（1992）	毎月第２土曜日休みとなる。「学校５日制」がスタート。
平成　５年（1993）	「亀山西１丁目・２丁目」が新設。
平成　６年（1994）	第１２回アジア大会（広島）　開幕。
	亀山児童館（亀山７丁目）が開館した。
平成　７年（1995）	阪神・淡路大震災　死者５，５００余名。
平成　８年（1996）	可部バイパス一部　完成。
平成１５年（2003）	ＪＲ可部線、可部～三段峡間廃止される。
平成１７年（2005）	亀山学区地域安全見守り活動隊（シニアウォーキングパトロール隊）が発足する。
平成１８年（2006）	亀山学区防犯組合連合会　発足。
	亀山地域包括支援センター　開設。
平成２２年（2010）	亀山学区自主防災会連合会　発足。
平成２３年（2011）	東北地方太平洋沖地震（Ｍ９．０）
平成２９年（2017）	ＪＲ可部線電化延伸復活開業（あき亀山駅～可部駅）。
令和　４年（2022）	広島市立北部医療センター安佐市民病院開院。
令和　５年（2023）	かめやまエルモが設立。
	かめやまエルモが「ひろしま型ＬＭＯ(エルモ)」として認定される。
令和　６年（2024）	広島市立亀山中学校創立５０周年記念式。
令和　７年（2025）	「かめやまエルモ」主催の前田智徳様・一柳信行様のトークショウが実施された。
令和　８年（2026）	亀山地区社福祉協議会創始５０年記念事業。